

学校における緊急度判断基準（名古屋市教育委員会）

- ・呼吸（A、B）、心臓・脈拍（C）、意識（D）に問題があるものはすべて超緊急～緊急 別紙参照
- ・判断に迷ったときは一つ上の処置をする。連絡が可能なら学校医に助言を求める
- ・既往症の可能性がある症状が出た場合は一つ上の処置をする（心臓病、アレルギー疾患、ぜん息等 ※学校生活管理指導表も活用）

緊急度	対応		症状例
超緊急 紫	救急車を呼ぶ	心肺蘇生・ AEDも行う	心停止・呼吸停止〈A,B,C〉 呼吸困難（通常の呼吸をしていない、てんかん等）〈A,B,D〉 意識障害（もうろうとする、返事がない等）〈C,D〉
緊急 赤		治療の遅れ は危険	頭や胸を強く打った〈A,B,C,D〉 高所から転落した〈A,B,C,D〉 顔色が悪い、くちびるの色が紫色〈A,B,C〉 熱中症等の疑い（頭痛や吐き気、けいれんを伴う等）〈C,D〉 重度の外傷（広範囲のやけど、出血が止まらない等）〈A,B,C,D〉 ぜん息の既往歴がある発作（激しい咳、呼吸苦を伴う等）〈A,B,C,D〉 手足・顔面のけが（大きく変形している、歩けない、動けない等）〈A,D〉
準緊急 黄	医療機関を受診 ＊速やかな搬送のために必要であれば救急車を呼ぶ		ぜん息の既往歴がない発作（血中酸素飽和度が保たれている） 強い痛みを伴う打撲 刺された・噛まれた傷 縫合が必要な傷 等
非緊急 緑	学校もしくは自宅で 様子を観察する		上記の超緊急、緊急、準緊急以外の明らかに軽い症状

参考：救急受診ガイド 消防庁
監修：名古屋市医師会

ABCD に問題のあるものはすべて超緊急～緊急

痛みや症状のみにとらわれず、以下の A～D の状態を観察して判断することが重要

区分		具体例
A (Airway)	呼吸	気道が確保できていない 通常の呼吸をしていない など
B (Breathing)		
C (Circulation)	心臓・脈拍	出血性ショック など
D (Dysfunction of CNS)	意識	もうろうとする、返事がない など

名古屋市医師会作成動画「学校現場での救急対応について」より一部改変